# とよなか市民環境会議 ニュースレター

Toyonaka Citizens Environmental Conference

２００１年（平成１３年）６月号（通巻第１３号）


環境出前講座

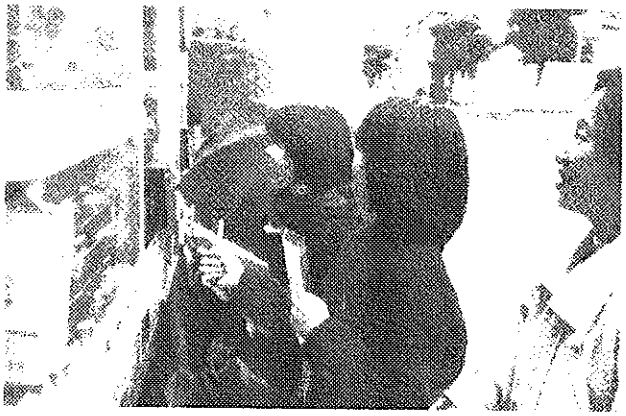
## 子どもたちも地球環境の学習

**とよなか市民環境会議ワーキンググループは昨年から小学校の環境学習に出前講座を行っています。今年２月28日に生活部会のスタッフが行った豊南小学校５年１組の学習会も充実した楽しい教室になりました。**

開口一番「お早うございます！」クラス全員のそれは元気な声で始まりました。学習への意気込みが感じられ、少し緊張します。とよなか市民環境会議の活動の紹介の後、今日のテーマ「エネルギーと温暖化」や「自動販売機」についてクイズをしたり、調査の仕方について説明しました。

２班に分かれて、自動販売機の探検調査に出掛けます。近くの酒屋さんや風呂屋さん、たばこ屋さんの店先に集中してあるのを直ぐ見付け、次から次へと小雨の中、表示板を覗き込んではデータを書きこんで行きます。よそ見をしたり、ふざける子なんかいません。飲料販売機でも数字の大きさに差があるのに気づき、どうしてかと質問がでます。たばこ販売機は数字が小さいなと熱心な観察が続きます。全部調べないと治まらない勢い。アッと言う間に時間がたちました。

教室に戻り、自動販売機の種類、消費電力量調べの発表と計算の実習を行いました。どんどん手が上がり、黒板が数字で埋まります。部会員が用意した自分の家の電気消費量を自動販売機のそれと比較し、日常生活上の省エネの大切さについて呼びかけました。自分たちで出来る省エネの工夫についても意見が沢山でました。その他質問も続出、時間が足りないくらい活発な学習会でした。最後に感想を交えた児童の挨拶で締め括られ、充実感のある学習会になりました。



教室の前の廊下には、地球温暖化の新聞記事、再生紙のリサイクル製品等、多数展示してあり、日頃から環境学習に取り組んでいる様子がよくわかりました。（宮田）

本号のハイライト


Ｐ．１　子どもたちも地球環境の学習
Ｐ．２　土と台所をつなぐ生命のかけ橋
Ｐ．３　水鳥観察会
Ｐ．４　エコライフカレンダー集計報告
Ｐ．５　環境報告書とわたし
Ｐ．６　ひと・人・hito　石黒さん親子
Ｐ．７　これであなたも“エコマダム”

# 「土と台所をつなぐ生命のかけ橋」　菅野芳秀さん講演

## ー循環型地域社会をめざす長井市民の取り組みー

**生ごみ堆肥化プロジェクトでは、2月19日、ステップホールで山形県長井市の菅野芳秀さんを招き、「生ごみ・剪定枝リサイクル講演会」を開きました。**

第一部の講師菅野芳秀さんは長井市の農業者でレインボープランの企画開発委員長。循環型地域社会をめざす市民の取り組みについて次のように語られました。

現在、日本の土が弱っているのです。土が弱るということは、私たちの生命力が弱るということだと思います。土は命だと言ってもいいと思います。土の中の世界というのは命の世界です。

土が弱っているということは、土の中にある微生物が、ビタミンなりミネラルなりを出すそのパワーが、土のなかでどんどん死に絶えつつあるということです。堆肥塚が農家から消えて40年、化学肥料と農薬の体系の中で作物を作り続けてきました。

生ゴミを堆肥にして土に戻し、土を肥やして、土に依存する人たちの地域社会を組み立てるのがレインボープランの大きな動機でした。

外国の農作物を食べることは、外国の土を食べていると言うことです。土の安全性を確認しないまま。土が命の源だというのは、まさにそのことだと思うのです。

私たちは生ゴミを仲人にしてレインボープランを育んで来ました。レインボープランとは、生ゴミを仲人役として「土と命」「土と台所」との品格ある関係を取り戻し、町の人と村の人が一緒に土にかかわり、共に健康な作物を育む「命と循環」を基調とするまちづくりです。　（要約　山本）

第二部　パネル討論

生ごみ堆肥化の展望と地域コミュニティの創造へ

助言者　菅野芳秀さん

パネラー

生ごみ堆肥化プロジェクト代表　高島邦子さん

豊中農事研究会代表　橋本忠男さん

ローズビラ地域子ども会副代表　浜口雅子さん

桜塚小学校教諭　浅野節子さん

コーディネーター　茨木かず子さん

地域、学校、農家などのパネリストによる討論がありました。中でも生ごみでつくった堆肥で実験をした農事研究会代表の橋本忠男さんは、次のように話していました。

「戦中までの農業は台湾から移入した豆粕を砕いて堆肥にしていました。その後、牛糞も使われましたが、牛に輸入の牧草を食べさせていたので日本にない草が生えて来たりしました。堆肥はどんなものが入っているか成分が大事で、ハウス栽培では塩分は絶対にだめです。次にビニールが混ざっていないことです。昨年は生ごみプロジェクトの堆肥で米をつくりましたが、家族が今までの米と味が違うと驚いていました。

化学肥料の畑では土が締まってきて足跡はできませんが、堆肥を入れた畑は、土が軟らかく足跡がつきます。去年は30キロのジャンボ南瓜を作りましたが、今年は40キロのジャンボ南瓜にも挑戦できそうです。」

橋本さんは「豊中市には農地が110町歩ある」と言っていましたが、菅野さんはそれを聞いて「半分の55町歩あれば、41校の小学校で毎日米飯給食するだけの米を賄うこともできます」と話していました。

「市民共同の生命の源としての農地をこれ以上減らさないように、市民と行政と一緒になって努力したい」と、橋本さんからも思いを込めたことばが聞かれました。　（奥野）

写真：豊中環境展での生ごみ堆肥で育てた野菜

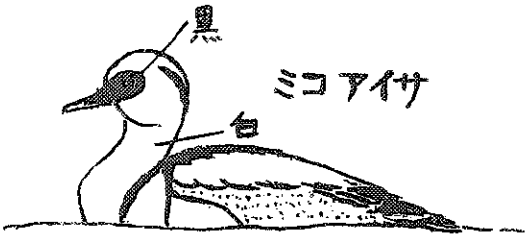
# 自然部会　水鳥観察会

猪名川（田能遺跡前～猪名川橋～競馬場横～利倉橋～原田大橋～クリーンランド）
平成１３年２月３日（土）

**何気なく見過ごしていた野鳥の美しさを目にすることは自然の妙技に改めて感動する一時です。今回も５３名がその感動を求めて参加しました。この感動を自然全体への思いに高めていけたらと、そんな思いで行っている水鳥観察会です。**

この時期は冬鳥のカモ類が多いので期待する。カルガモ、オシドリなど一部を除き秋になると、北のシベリア方面から越冬のため、日本に渡ってくる。

スタートしてからしばらく、サギやヒバリなどを観察しながら、競馬場横に来た時であるが、この日最大の目玉ミコアイサが泳いでいるのが見えた。白と黒のツートンカラーが太陽の光を浴びてひときわ目立った。よく見ると目の回りが黒い。パンダガモと言われる所以である。豊中では大変珍しく、今日はとても得をしたような気分になった。皆さんじっくりと観察出来て良かったと思う。シャベルの様なくちばしを持ち、水面のエサとなるプランクトンを濾して食べている。




ハシビロガモやピューンという口笛の様に大きな声で鳴くヒドリガモなど、この日カモ類は７種類であった。

その他目立った所ではサギ類が４種類であった。一周して４時近く、原田大橋の上から空港側の川辺にカワセミを見ることが出来た。ご存知の通り、美しいコバルトブルーの羽と大きなくちばしのこの鳥は、観察会の人気者である。最後に見られてラッキーでした。

日も傾き、とても寒くなってきた所でこの日の観察会を終了した。

【本日の観察記録は下記の通りである。】

水鳥（１８種類）
ミコアイサ、マガモ、カルガモ、コガモ、ハシビロガモ、ヒドリガモ、ホシハジロ、アオサギ、ダイサギ、コサギ、ゴイサギ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、カワセミ、カイツブリ、バン、カワウ、ユリカモメ、イカルチドリ

その他の鳥（１１種類）
スズメ、ムクドリ、ヒヨドリ、キジバト、カラス、ヒバリ、モズ、ツグミ、ジョウビタキ、イソシギ

（三宅）

# 生活部会　エコライフカレンダー
## ―２０００年度版の集計を終えて―

家庭から出るＣＯ2 の排出量を調べることで、省エネを意識しライフスタイルの見直し行動につなげようとして作ったのがエコライフカレンダーだ。延べ 106 人のモニターの協力を得て、2000 年度エコライフカレンダー豊中版の集計結果を出すことができ、当初は順調にハガキも返送されてきて、前半の１―６月期の提出率は 90%以上の月も多かった。「誰もがつけやすくて続けやすい」ことを念頭において作成したエコライフカレンダーだったが、後半は提出率も 75―80%に落ちてしまった。その後、電話・ハガキによる督促でようやく年間の提出率は 84%になった。

〈集計結果から分かったこと〉

①電気は１月と８月に大きなピークがある。これはやはり暖房や冷房によるものと思われる。

②ガスは冬の 1―3 月に多く、夏季の 6―9 月はぐっと少なくなる。

③ガソリンは年間を通じてだいたい同じなのは、通勤などに使われているからだと思う。５月と８月にガソリン使用量が多いが、連休や夏休みの家族旅行やドライブが多くなったからか？　車の冷房もガソリンアップの一因になっていると思われる。

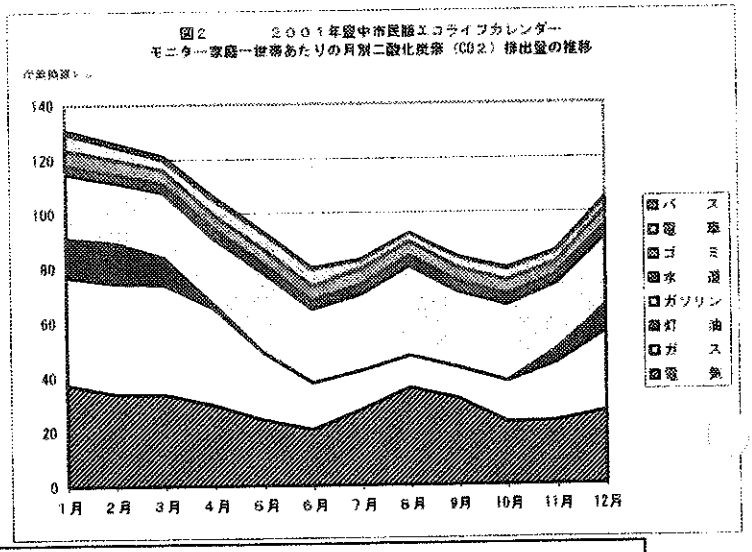
④月別にみると、夏期より冬期にＣＯ2 の総排出量は多くなっている。やはり冬場は暖房用に電気やガスの使用が増えるためと思われる。

⑤同人数の家族で見ると、やはり車のある家族の方がだんぜんＣＯ2 の量は多い。

⑥モニターから寄せられた感想の中にも「思い切って車を廃車した」という行動もあり、エコライフカレンダーをつけてみてこそ分かった結果からの行動だと高く評価したい。

「誰もが無駄をしないように心がける」ということから、省エネにはエコカレンダーをつけることは大事なことだと思われる。誰にでもつけやすいように配慮したつもりだったが、毎回のゴミの計量はめんどうだという意見も多数あった。

モニター106 人のうち、12 ヶ月を通しての提出者は 67 人であった。心から「がんばったで賞」を差し上げたい。　（今井）




# 生活部会　マイバッグ運動
## ―小学４年生と保護者アンケートまとまる―

昨年１０月、小学４年生とその保護者を対象にスーパーのレジ袋についてのアンケートを実施しました。マイバッグ運動としては、過去２回スーパーの店頭で買い物客へのアンケートを経験しましたが新しい取り組みで、いろいろな発見がありました。

子どものアンケートでは、買った物が小さいときや、すぐ食べるおやつなど、レジ袋はなくてもよいという意見が印象的でした。

保護者の回答では、大半が３０，４０代の年齢層でしたが「買い物袋を持っていく」が１０％を超えていて、これまでの店頭調査では把握出来ていなかった年齢層でも、十分に意識が高いのを知りうれしく思いました。

今年も秋には中学生とその保護者を対象にアンケートを行い、またスーパー店頭でのキャンペーンも計画中です。　（奥野）

# 環境報告書とわたし

北緑丘に両側樹木でおおわれた緑道がある。夏にその道にさしかかると、ホッと大きな息がしたくなるほどの心地良さを感じる。それもその筈、あのぎらぎらする太陽を青葉が遮り、木の幹は常に木を通して見えないけれど水柱を並べたようなものなのだから、そして人の通路は風の通路でもある。コンクリートに囲まれた道路と比べて2・3℃差のあるのもうなずける。

その樹木が夏を迎える季節に丸坊主(深い剪定)にされかけた事がある。というのは一本剪定された段階で住民が気づいて止めてもらったからだ。今年、緑道の樹木は冬に剪定された。道行く人にも緑道傍の花壇やベランダにも冬のやわらかい陽の光は降り注いだ。今年も真夏は梅雨の間に繁った枝葉が優しく私たちを包んでくれるだろう。

「なんで?」と首を傾けることが、市の行政と実際そこで生活している私たち市民との間にはしばしばある。

そんな体験を通して私たち市民は、長い間行政の仕事を、各部局がばらばらで(縦割り行政)、作ってしまえばそれで終わり(効果評価なし)、そして予算は良くも悪くも使い切らなければならないものだと思ってきたし、あきらめても来た。そんな中で時々耳にする市民の意見を行政に反映するためと称する公聴会。どこでどう反映されたのやら・・・。

私たち市民側からみれば、そんな疑問や矛盾を何とか打開しようと試みられたのが『豊中市環境報告書』ではないだろうか。

これは、先ず年度の中間報告書が出され、それに対して市民意見を受付け、市民意見は環境審議会に出され、それに基づいて環境報告書(年次報告書)が作成され再び市民に渡るというシステムになっている。

今までの市民意見が聞き置かれたのに対して、はっきりとどう活かされたかを、市民に提示してくれるシステムだ。

内容的には、環境関係の条例や諸計画が一覧できることがありがたい。また、興味深いのは市民から出された疑問や意見が、そのままの形で掲載され、それに対する回答や意見が、市として集約されることなく各関係部署ごとに羅列されていることである。各部署の違いは、もちろん立場の違いもあるだろうが、それぞれ部署ごとの姿勢や学習度(時代の流れなどの)等も感じられて面白い。

この報告書は、私のような一市民が見ても、その作成にはずいぶんご苦労があるだろうと推察する。しかし、このシステムが一時的なものでなくずっと続けられることによって、行政のあり方も市民の行政に対する理解もずいぶん今と違ったものになるのではないだろうか。

ほめ言葉ばかりを並べてしまった。何しろこれは縦糸だけのようだった行政に横糸を通し、計画と施行だけで終わっていた行政に点検(チェック)機能を被せる試みの始まりなのだから。

それだけに読む私たち市民にも読解力が要求されるし、報告書の表現方法ももっと工夫される必要があるだろう。私のいちばん懸念するのは、報告書の常として数字表現が多用されるだろうが、数字は量だけの表現で、質は後ろに隠れてしまうということだ。

うっかりすると行政もそれを読みとる私たち市民も隠れた質を見抜くのを忘れてしまい、ただ数字を上げることだけを追うことにならないよう気をつけたい。それにはやはり日常生活の中で、市民一人ひとりが自分の環境に関心を持ち意見を持ち、それを表現していくことではないだろうか。その表現の場としてこれを充分に活かしていきたい。

(千里川を考える会　　荒井道子)

第1回環境フォーラム
(1999年)

## ひと・人・hito

### 石黒元久さん・汰一君　父子（豊中市熊野町）

このコーナーは地域や家庭など身近なところで環境に取り組んでいる人を紹介しています。
第４回では竹炭焼きに父子で参加された石黒さん（３７歳）と小学校２年生の汰一君です。

竹炭焼きの日に現場でインタビューしました。

**－この竹炭焼きに参加されたきっかけは?**

昨年 11 月に「竹と親しむ」の講座に参加したのがはじまりです。貴重な樹が残っている島熊山の雑木林が孟宗竹の繁殖でだめにされるという話を聴き、伐った竹を有効利用することはいいことだし、楽しかったので子どもといっしょに来ています。もともと私は野遊びが好きでしたから、子どもにもぜひ自然の中での生活を体験させたいと思って・・・。

**－汰一君、楽しかった?**

（ちょっと考えて）グミがとっても甘かった。

**－竹炭を焼く体験は汰一君にとってどうでしたか**

遊びと自然保護とをかねたこのような活動は、非常によいことだと思って今日も寄せてもらいました。「竹と親しむ」のような指導を受けながら子どもも遊ばせていただき喜んでいます。私自身も竹林の生態系の話など、非常に勉強になりました。こうした活動に参加することで自然が一層身近なものに感じられるようになりそうです。

ほんとうは子どもよりも、父親の私の野遊びの趣味にいっしょにつき合わせているという面も大きいでしょうね。自分が都会っ子だったので、これまで自然に親しむ機会が少ないままに大人になってきました。豊中のような街ではたき火をすることもめったに経験出来ませんから貴重な体験です。こんな経験が子どもにとって原体験として後々まで大事な記憶になればいいと思っています。

**－汰一君、この前の竹炭を焼くのは楽しかった?**

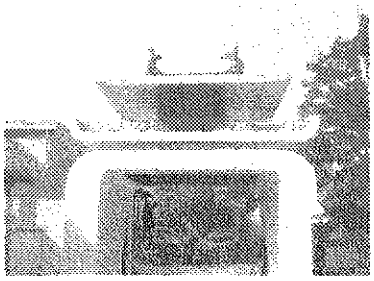
竹を詰めるのは楽しかった。でも火をつけてからあとは煙で目が痛かった。「今日は、水泳のゴーグルを持ってきたのですよ」と父子がゴーグルを見せてくれました。それと、焚き口をあおぐ団扇も持参し、いつでも作業にかかれる態勢でした。

たしかに都会育ちだと言っていたように、火を燃やすことは滅多にない体験だったでしょう。
取材が終わるのももどかしく、すぐにかまどの燃やし口のところに陣取り、楽しそうに団扇を使って父子で火を燃やしにかかっていました。

（今年２月24日に取材、奥野）

## わがまち　とよなか　再発見！！
## ちょっといい豊中
### 第１回岡町あたり

豊中には歴史ある建物や史跡、自然が残されています。今回は、ふだん何げなく見すごしているちょっといい岡町を、みんなで歩いて見てまわりました。



瑞輪寺
一休さんの子供のお墓がある

クロマツ
豊中市の保護樹です

参加団体の横顔

とよなかのあちこちで環境への取組み

# これであなたも"エコマダム"

## 青年会議所主催エコライフカレンダー記入説明会

**2月24日午後3時すぎから、くらしかんのイベントホールには、豊中青年会議所（JC）の主催するエコライフカレンダー説明会に100人余のJCメンバーと家族が集まりました。**

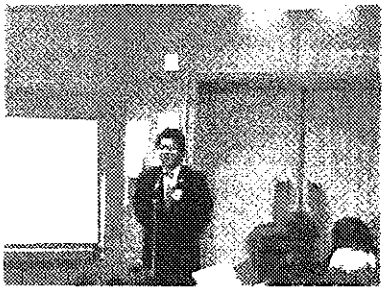
満員御礼！！　皆様の暖かいご協力のおかげでなんとびっくり！JCメンバー41名、奥様はじめ一般の方４０名、子供３０名、合計111名の大変賑やかで活気ある催しにすることができました。

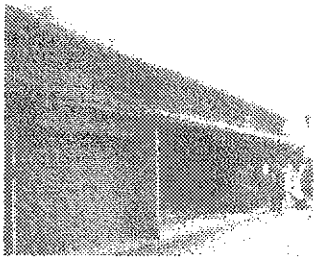
くらしかんで一番大きな会場のイベントホールで皆様をお迎え出来た事を豊中 JC メンバー一同厚く御礼申し上げます。また当日協力していただいた、とよなか市民環境会議生活部会の方々にもこの場をお借りして、今一度御礼申しあげます。

この経験を活かし、豊中JC地球益推進委員会のチームワークで、また次の"おもしろまじめ"な事業に取り組んでいきたいと思います。

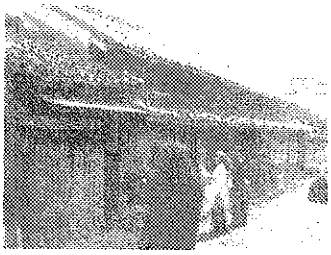
7月20日海の日には千里川周辺において今年も「みんなで創ろうアクアユートピア」事業をアクアユートピア実行会議主催で開催します。またその節は自然部会の方々をはじめ皆様方にお世話になることと思いますが、どうぞよろしくお願い申しあげます。

社団法人 豊中青年会議所 地球益推進委員会
委員長 石田夏彦



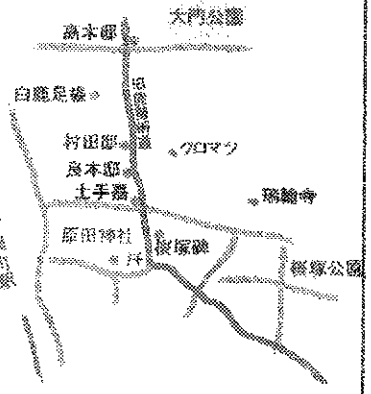


良本邸
昔の造り酒屋です



高木邸
珍しい虫籠窓がある

原田神社
当日はここで紙芝居をしました



Part4

## 創作民話「地下探検！マチカネワニ」

マチカネワニが化石からよみがえってはやくも1年。

「そろそろ仕事を捜そうかな。」

そういってオフィス街にでてみました。ワニは手当たり次第に色々のビルに押しかけました。そして「雇ってください」と言いました。

会社の人たちが「あんた何がしたいん？」と聞くとワニは「わくわくする仕事がしたいんです。」と言いました。

しかし、「ああ、うちの社ではそういうのはないから。」と追い返されました。

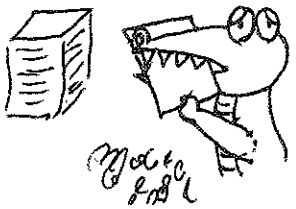
何社か訪ねてからワニは戦法を変え、「事務などしたいです。何しろ何万年も土の中でじっとしていた、ねばり強い性格です。」と売り込みました。

「しかしねえ、古代からいきなり来て、しかもワニの身で今から入社されても厳しいねえ。」と人事部長は言いました。

その時、お茶を入れてきた平社員が人事部長に何かひそひそと耳打ちしました。すると人事部長はパッと顔をほころばせて「そうや、あなたはシュレッダーとして入社していただきたい。」と言いました。

次回まで乞うご期待！

（民話の続き投稿大募集！）　　（E三宅）



## 編集室から

とよなか市民環境会議が発足して、マル5年が経過した。ちょっと活動を振り返ってまとめたいときだが、この間に出来たことや出来なかったことなどいろいろあった。豊中アジェンダ21では「活動拠点を作ろう」の活動目標もあげているが、まだ達成できていない。ニュースレターはこの1年間季刊での発行を守っているが、5月になって環境企画課のスタッフの2人が倒れ、編集メンバーは大忙しになった。何とか発行に漕ぎつけたが、出来栄えはいかがでしょうか。（Z）　〈広報チーム〉　Z奥野、M荒井、R水谷、E三宅、N富田、M山本、A亀村

## 今後のスケジュール

**自然部会**

●日　時　7月21日（土）13：30～15：00
●場　所　中央公民館講座室（3階）
●内　容　豊中の地質について
●講　師　岡本　茂さん

**生活部会**

●日　時　7月31日（火）10：00～14：00
●場　所
千里川箕輪親水コーナーから下河原橋
●対　象　小学生と保護者、市民50人
＊詳しくは広報7月号をご覧ください。

◎次の部会等は定例的に会議を行っています。参加を希望される方は、事務局までお問合せください。

自然部会　毎月第2月曜日　18時～
生活部会　毎月第3土曜日　13時30分～

## いっしょに活動しませんか

市民環境会議では、さまざまな活動を行っています。あなたの才能や技術、そして環境を良くしたいという気持ちを、とよなか市民環境会議で活かしてください。

パソコンが得意なあなた、炭焼きをやってみたいあなた。自然にふれあいたいあなた。どなたでも大歓迎です。いっしょに活動して、豊中をステキなまちにしていきましょう。

まずは下記事務局までお電話を！

待ってまーす！

発　行：とよなか市民環境会議
事務局：豊中市生活環境部環境企画課内
編集責任：奥野　享
〒561-8501　大阪府豊中市中桜塚3-1-1
TEL：06(6858)2106　FAX：06(6842)2802
★とよなか市民環境会議は、市民・事業者・行政のパートナーシップ組織です